

# 江戸川上流だより

国土交通省関東地方整備局  
江戸川河川事務所  
江戸川上流出張所発行  
春日部市西金野井886  
電話 048-746-0063  
2010年8月23日[第14号]

## 江戸川誕生の歴史について

現在の江戸川は、多くの人に散策やレクリエーション等に利用されており、また豊かな自然環境が広がる貴重なオープンスペースとなっています。ところで、利根川と江戸川の分派点（野田市関宿三軒家）～野田橋の下流付近（吉川市深井新田）までの間は、人工的に掘って作られた川というのをご存じですか？

江戸川は、徳川家康公により行われた「利根川東遷事業」により誕生した川です。

かつての利根川は東京湾に注がれており、洪水の度に流路を変える「暴れ川」で、江戸などに甚大な被害をもたらしていたことから、流路を東京湾から太平洋へと変える工事を行いました。これにより、洪水の防止、舟運・新田開発などの発達に大きく貢献しました。

また、江戸川は、江戸への物資輸送の主要な舟運ルートの確保などを目的に整備されたものでした。

## ～利根川東遷事業～



※1654年 赤堀川の拡幅完了により、利根川は太平洋へ

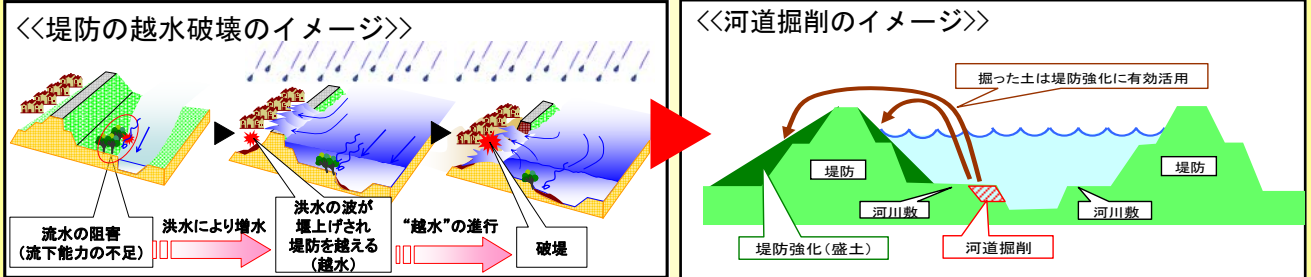
## 現在の江戸川の様子



※図は江戸川の誕生について中心に作成しています

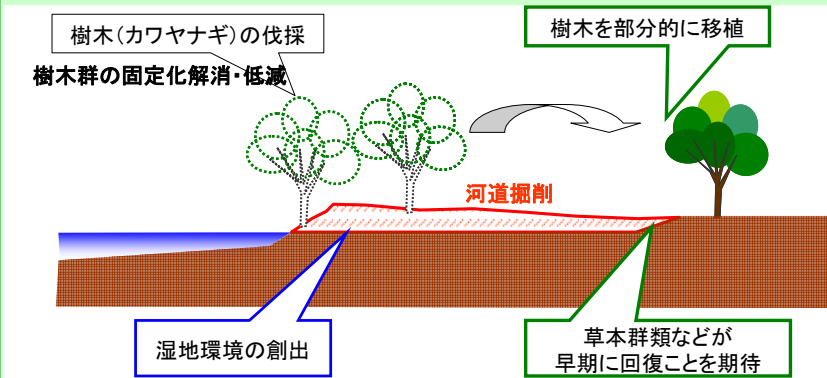
# 《江戸川の河道掘削について》

江戸川は首都圏を流れる川であるため、洪水が氾濫した場合、資産と人口が集中する首都圏に甚大な被害をもたらします。しかしながら、今現在の江戸川は、洪水を安全に流す能力（流下能力）が不足しており、川幅が狭いことなどにより堰上げられ（流水の阻害）、洪水が堤防を越えてしまうことにもなりかねません（越水）。そのため、これまで多くの箇所にて川の中の掘削工事（河道掘削）を下記イメージのとおり実施し流下能力の改善を図っています。



## ～河道掘削時の環境への配慮事例について～

江戸川は利根川東遷事業により誕生した人工河川ですが、現在の水際付近には樹木林が繁茂し自然豊かな環境となっています。しかし、良好に見える水際の環境は樹木林が多く、単一化しており、昭和20年～30年代に水際に多く繁茂していたヨシなどの湿性植物などは現在では少なくなっています。このことから、植物生息環境の多様性を創出するという観点から、上記の河道掘削時に樹木群の単一化を解消する試みを実施しています。



### 出張所へのお問い合わせ

H22. 8. 23 現在

出張所には様々なご相談やご意見を頂いております。（件）

区分	H22年度	H21年度(年間)
河川区域等	12	30
河川利用等	3	33
官民境界等	0	4
河川法手続き	0	16
占用施設	2	10
コブシ開花状況	0	13
その他	8	50
合計	25	156

河川に関するお問い合わせは当出張所まで。

### あとながき

昭和22年のカスリーン台風では、利根川の新川通地区（現久喜市）などで堤防が決壊し、未曾有の大災害となりました。その氾濫流は「利根川東遷」以前の流路を流れ、東京まで達したそうです。なお、新川通地区の決壊の原因は今ご紹介した「越水」でした。

江戸川でも過去の出水により幾度も被災を受けてきました。

「利根川東遷事業」以降の近代の歴史は、カスリーン台風などで幾度も受けてきた被災を教訓として、川幅を拡げる工事や堤防強化工事等を実施し、洪水と戦ってきた歴史でもあります。

また、治水事業もさることながら、今回ご紹介した植物生息環境にも配慮した“多自然川づくり”の取り組みを今後とも進めて参りたいと思っています。